

平成 19 年 6 月 20 日  
幹事（小嶋・大野）

「新しい日本の ODA」を語る会  
前回の議論の整理と第 10 回会合における論点

1. 第 9 回の議論をふまえた整理・今後の留意点

- ・ 課題 1「理念と戦略を明確にする」、課題 3「世界の援助潮流、国際環境をリードする」、課題 5「実施体制を再構築、強化する」、課題 8「民間セクターとの連携強化、官民同盟を構築する」に関し、民間セクター（企業、NGO）を含めた「四層構造」、および政策決定への政治の関与（戦略性）についての議論をふまえて改定。
- ・ 課題 6「各種制度を改革、強化する」、課題 7「ODA 予算」に関し、ODA 行政改革についての議論をふまえて改定。
- ・ 課題 9「人材育成」については、参議院 ODA 特別委員会の提言（6 月 13 日に議決）の内容を参考に追記。

【参考資料】

- ODA マニフェストの作成に向けて（事務局たたき台 6/20 版）
- 第 9 回会合の議事録（ポイント）

2. 本日のねらい 「日本のアフリカ支援と民間セクターの役割」

- ・ 上記 1 で提起された点（「四層構造」、民間セクターとの連携・同盟の構築、ODA 行政改革など）も念頭において、日本のアフリカ支援のあり方を検討する（課題 8、10 に焦点）。

【参考資料】

- 事務局からの問題提起
- 想定される論点：
  - なぜ、アフリカ支援か？
  - 国民への広報の方法（やはり、「国際益」と「国民益」の「二枚舌戦略」を使うべきではないか？）
  - 日本の ODA 総額におけるアフリカの位置づけ、資源配分のビジョンは如何に（2008 年以降も、2007 年時点の対アフリカ ODA 額を事業量で維持すべき）
  - 対アフリカ支援アプローチを革新するには何をすべきか、制約要因は何か？
  - 対アフリカ支援戦略の協議・実施促進を目的とした、官民で構成される恒常的フォーラムを設置する可能性？

以上